

書くこと 指導のポイント

(その6)

～ 思考して書く活動 ～

「英作文」の指導については、書くこと 指導のポイント (その1)でも紹介しましたが、以下のような対策を提案しています。

Click

「英作文」の指導については

- **思考して書く活動を定期的に授業に位置付ける。**
 - ・ 使用すべき言語材料を自ら選択できるような「書く活動」を授業で継続的に位置付ける。
 - ・ 定着を目指した書く活動、活用を意図した書く活動のバランスにも配慮する。
 - ・ 個々が「できた」と感じ、自信がもてるよう支援を工夫する。

【まとまりのある英文を書かせるために】

- **USE-Write や Mini-project で、まとまりのある英文を書く時間を積極的に設定する。**
 - ・ 授業で「まとまりのある文」を作成させ、定着確認シートでも取り組ませ、定期テストでも出題するなど工夫する。
- **一問一答でなく、ワンセンテンスを付け加えることを日常的に意識させる。**
 - ・ 「話す活動」や「書く活動」において意識させる。

今回は、一つ目にある「思考して書く活動」について、具体例を示します。

「思考して書く活動」としては、単元末等に行う「まとまりのある英文」を書く活動があげられますが、今回は、日頃の授業の終末などで行う、単文等を書く活動として考えます。

次のA、Bの課題を見てください。

課題A

- 次の日本語を英語にしなさい。
水をいただけませんか。



課題B

- Bの話した英語を下線部に書きなさい。
A: You look very tired.
B: I worked all day, so I'm very thirsty.
_____ some water?
A: Sure. Here you are.

課題A、課題Bともに、生徒に Could you give me some water? 等と書かせたいという点では同じです。



課題Aについては、Could you? の表現や give+人+物 の文構造等の定着を目的として取り組ませることがよくあります。問題集やワークブックなどには、この種の課題が非常に多く見られます。



自分の授業を振り返ると、日頃の授業での書く活動では、課題Aのようなものが多いと思います。



課題Aは、定着を目指すために必要なものですので、今後も充実してほしいと思います。しかし、日常の書く活動でも、特に授業のまとめで行う書く活動などでは、課題Bのような思考して書く課題を増やす必要があります。



課題B (思考して書く課題) の特徴は何ですか？



課題Bに対応できるような「書く力」が今求められています。課題Bに対しては、生徒は文法や語彙の知識だけでなく、AとBの会話から、Bが1日中働いて、のどがからからだということを読み取ることになります。そしてAが、Bが何かを話した後に、何かを差し出したところから、Bは、「水がほしい。」と言ったのではないかと「思考」します。そして、文末がクエスチョンマークであることも意識して、言語材料を選択し、文を「産出」します。



思考 — 言語材料を各自で選択 — 産出 を生徒に求めています。

ただし、課題Aに比べ、難易度は高くなりますので、生徒全員が解くことができるように、個に応じた手立てを考えておく必要もあります。

「思考して書く活動」は、このように「まとまりのある英文」を書く活動だけではありませんので、特に授業の終末のまとめの書く活動において、各校で工夫してください。

また、**定着確認シート**の「書く」問題は、「思考して書く」課題として作成しています。ぜひ、活用してください。